

三歸依文

人身受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く。

この身今生において度せずんば、さらにいづれの生においてかこの身を度せん。大衆もろともに、至心に三宝に歸依し奉るべし。

自ら仏に歸依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大道を体解して、無上意を發さん。

自ら法に歸依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、深く經藏に入りて、智慧海のごとくならん。

自ら僧に歸依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、大衆を統理して、一切無碍ならん。

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭遇うこと難し。我いま見聞し受持することを得たり。願わくは如来の眞實義を解したてまつらん。

受け難い人の身を、わたしは今、すでに受けていました。聞き難い仏法を、わたしは今、確かに聞きました。今、ここで、この身に念仏往生の道があきらかにならなければ、いつあきらかになるのでしょうか。あらゆる人々よ、ひたすらひたむきに仏法僧の三宝を依り処とする生活をたまわりましょう。

わたしは仏を依り処といたします。ここに願います。全ての人々とともに、

本願念仏の大道に深くうなずき、眞實信心を獲ることを。

わたしは法を依り処といたします。ここに願います。全ての人々とともに、

深く本願のところに触れて、その智慧が海のように限りなくわたしたちの上にはたらくことを。

わたしは南無阿彌陀仏に生きる人たちを依り処といたします。ここに願います。全ての人々とともに、あらゆる人々に念仏の声が届き、どこまでも響き渡ることを。

「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」、このことをうなずくには、どれだけ思慮、努力を尽くしてもかありません。わたしはまさに今、その教えに出遇い、身にうなずく場にいるのです。願わくは如来の本願を我が身に聞き、念仏の生活者とならんことを。

凡例

・本書は、『真宗大谷派勤行集』（東本願寺出版）に書き下し文及び現代語訳を付し、勤行（おつとめ）に用いるとともに、同朋会などでテキストとしても活用できるように編集した。

・書き下し文は、『真宗聖典』（東本願寺出版）によった。

・旧字は、すべて新字に置き換えた。

・『真宗大谷派勤行集』同様、勤行に用いることができるよう主要な部分は頁を揃えたが、テキストとしての用途や、勤行での使いやすさを考慮し、左記の部分については内容の変更及び増補を行った。

☆50頁～58頁 ↓ 「真宗のおつとめについて」を掲載

☆71頁～81頁 ↓ 現代語訳に付した番号の語句の語注を掲載

☆82頁～85頁 ↓ 「聖句」は「教行信証」（総序）全文を掲載

☆125頁～141頁 ↓ 報恩講のおつとめ（連夜）「五十六億七千万」次第六首 念仏・和讃・回向

☆142頁～151頁 ↓ 報恩講のおつとめ（満日中）「三朝浄土の大師等」次第三首 念仏・和讃・回向

おつとめの表記について

○ 調声人が発声するところ

● 鑿を打つところ

○ 息を継ぎ声を切るところ

△ 声を切るところ（息を継いでもよい）

※題字は親鸞聖人自筆文字

高山教区・高山別院 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念

正信備同朋唱和集

—現代語訳付—

目次

正信偈（草四句目下）…………… 3
 念仏・和讃「弥陀成仏のこのかたは」次第六首・回向…………… 33
 真宗のおつとめについて―正信偈・和讃・御文…………… 50
 御文「末代無智」・「聖人一流」・「御正忌」・「白骨」…………… 59
 語注…………… 71
 聖句（『教行信証』総序）…………… 82
 真宗宗歌…………… 86
 三皈依（パーリ文）…………… 88
 三誓偈…………… 89
 嘆仏偈…………… 92
 同朋奉讃 念仏・和讃・回向…………… 97
 恩徳讃Ⅱ…………… 123
 報恩講のおつとめ（速夜）「五十六億七千万」次第六首 念仏・和讃・回向…………… 125
 報恩講のおつとめ（満日中）「三朝浄土の大師等」次第三首 念仏・和讃・回向…………… 142

○●
 帰命無量寿如来

無量寿如来に帰命し、

南無不可思議光

不可思議光に南無したてまつる。

法蔵菩薩因位時

法蔵菩薩の因位の時、

在世自在王仏所

世自在王仏の所にましまして、

わたしを呼び覚まそうとしてや
 まない、はかりしれないのち
 と、

わたしの思いを超えた光の如来¹
 に帰命²し、仰ぎ申しあげます。

阿弥陀如来が法蔵³と名のり、ま
 ことの道を求められていた時、

師である世自在王如来⁴の所で、